

第 19 回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース研修会参加レポート

事務局 災害対策部

西谷 真亜沙（老人保健施設レストア川崎）

第 19 回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース研修は JICA 東京にて 8 月 16 日、17 日の 2 日に渡って開催されました。今回の研修は 10 以上の団体から約 90 名の医療従事者が参加しました。

初日は『大規模災害発生から急性期の対応』という名目で南海トラフ巨大地震が発生し、大津波により東海から九州にかけての太平洋側の広い範囲で甚大な被害が発生したという災害想定の下、グループに分かれて災害派遣シミュレーションを行いました。

シミュレーションでは、どのような派遣形態が考えられるか、どのような準備が必要か、どのような移動手段が考えられるか、現地ではどのようにどこで活動を開始したらよいか、宿舎をどこに確保するかといった設問に対してチームで協力して検討していきました。私の参加グループは札幌市から派遣されるという設定でした。今回、派遣先被災地が高知県という設定で全グループの中で私たちの派遣元が最も遠距離にありました。空路、陸路それぞれのメリットデメリットや北海道という遠い地域から支援に入る支援者の装備（資機材の内容や量）、自分たちの心身の疲労度、活動開始のタイミングが他チームよりも遅くなる可能性が高いなどのよりリアルなイメージをしながら、移動手段、活動場所の選定、宿泊地の検討を行ったことが、とても印象深く有意義なシミュレーション体験となりました。これは、私自身が実際に DWAT として能登半島地震の被災地支援に行った経験があるからこそ、よりイメージを想起することができたことで、自分のチームをどのように編成（空路は先遣情報収集班、陸路は資機材運搬や生活援助班として行動←陸路ではキャンピングカーを出すというグループもあった）すれば、安全にまた効果的な被災地支援ができるかを考えられました。

そして初日の後半は HUG を実施し、クロノロの役割で避難所運営を体験しました。避難所に来た避難者の人数や所属、要配慮者などの把握のために人数を記録していましたが、



図 1：急性期シミュレーションの事前説明



図 2：グループでシミュレーション中

まっさらなホワイトボードに正確な情報を残すことはとても難しく、予めアセスメントシートなどの形式がないと、カウントにミスが生じやすく、結果的に避難者に必要な支援が届かなくなる、もしくは遅くなる可能性があるのではないかと感じました。しかし急性期では実際には細かな情報よりも、大雑把でも重要な課題は何かを把握できるように記録していくことが大切であることを学びました。

2日目は初日に作成した HUG を使用し、実際に『自分の避難所（発災後 4 日）に支援者が来る』または『支援者として避難所に行く』というロールプレイを行いました。私は救護班の支援者として避難所に行くという役割でした。今回は自分が救護班の一員であるという設定であり、自分の役割を的確に避難所運営者に伝えられなかったこと、何の情報を優先的に収集すべきだったのかが不明確で良いロールプレイができませんでした。この点に関して、『評価したものは対応に繋がなければならない』というワードがとても印象的でした。このロールプレイでは避難所運営側に、本日 6 隊目の訪問であること、現場は疲弊していること、すでに隊を要請したのに何も対応されない状況であるなどの詳細設定がなされていたことから、よりリアルな現場の空気感をイメージでき、その分十分な対応ができなかったことに焦りも感じました。そのため、避難所支援に入った際には『避難所の一番のニーズが何であるのか』を十分把握すること（既に巡回がなされていた場合は事前情報を十分把握する）そして『自分たちに何ができるのか』を具体的に明示することが大切であることを学びました。

その後、災害食の準備の仕方や試食を行いました。ベーシックコース受講の際にもアルファ化米の作り方を教えて頂きましたが、今回はパッククッキングといってビニール袋とポットのお湯でさまざまな一品が作れることを学びました。また完全メシや栄養バランスカレーといった前回にはなかった新たなレトルト食が増えており、災害時の食料品のバリエーションが増えていることは被災者にとって栄養面でも精神面でもとても有難い進歩だと思いました。



図 3：HUG を使用した避難所ロールプレイ



図 4：パッククッキングを実演

2日目最後の演習では、医療コーディネーターという立場で、前チームからの引き継ぎ、支援者に対する支援コーディネート、翌日への引き継ぎという1日の流れを体験しました。そこでは手元にある事前情報や他の組織が持つ情報を収集し、いかにまとめて「見える化」し、的確に支援者に指示を出せるかが大事であることを学びました。具体的にはどの地域に、どのようなニーズがあるかを明示しておくこと。それによってどのチームが現地に向かえば良いか指示ができるため、指示を出す前に、「情報の整理がいかに重要であるか」を強く実感しました。今回のロールプレイではいかにコーディネーターの立場が情報に混乱させられる立場かがわかったため、少しでも自分が現場の力になれるよう練習を重ねたいと思いました。JIMTEFファシリテーターからも繰り返しの経験が必要であると言われました。



図5：避難所医療コーディネーター体験

【2日間の研修を通して】

アドバンスコースでは実践に繋がるシミュレーション、ロールプレイを多く勉強させていただき、自分が現地にいたら…というリアルなイメージを持たせてくれました。また今回は災害対策本部や避難所運営など、その場を統括するという立場で、かつ急性期という時期の想定でした。これまでは自分が支援に行った団体のリハ職の1人という考え方の枠組みしか持っていませんでしたが、この機会にさらに大きな視点、考え方を学ぶことができ、災害支援の幅の広さと深さを実感した有意義な時間でした。